

MUGENの課題に段階的に立ち向かう ~学んだことから広げるMUGENの可能性~



鹿児島大学工学部先進工学科化学生命工学プログラム3年 坂下太一

スケジュール

- 1、2日目 学習塾や夢現について知る
- 3~7日目 指導業務、インタビュー
- 8日目 木鶏会(社内研修)
- 9日目 プレゼンづくり
- 最終日 成果発表

- ▶ 業界 教育関連 (コンサルタント・専門コンサルタント)
- ▶ 所在地 鹿児島市薬師2丁目14-21
- ▶ 本社 株式会社夢現 進学塾MUGEN城西校
- ▶ 事業内容 自立学習指導 (個別指導) をメインとした小中高校
生まで対応の学習塾/高校生対応の広域通信制サポート校

課題

大学生講師がMUGENの先生として、さらに**主体的**に生徒に働きかけられるようになるには？

自主的
他人の干渉や保護を受けず、自分から進んで行動するさま。

主体的
自分の意志・判断によって行動するさま。 ※大辞林より引用

課題解決までのプロセス

- 調査 ・ 学生講師にインタビューをする。
- 現状 ・ 社員と学生講師の目的が異なっている。
- 課題 ・ 社員が学生講師に対して、目的を共有する時間がない。
- 解決策 ・ 業務の効率化による時間の確保をする。
- 具体案 ・ プログラミングで成績掲示の製作時間を短縮する。

自主的 → **teaching** 主体的 → **coaching**

インタビューから

社員は企業理念を達成することを目的として働いているが、学生講師は働くことが目的になっているのではないか。

木鶏会

人間学誌『致知(ちち)』をテキストに、毎月1回全グループ社員が一堂に会して感想を話し合う研修

目的が共有され、共感してもらえてこそ、**主体的に動くことが出来る**。しかし、木鶏会は、社員だけが参加しており、学生講師は参加できていない。木鶏会のような、目的を共有する場や時間が少なく、新たにそういった時間を創ろうとしても、社員の業務が忙しく、学生講師に使う時間がない。

まとめ

- ・ 現場にいったからこそその課題を見つけることが出来た。
- ・ 大学で学んだことを活かした。
- ・ **主体性**：自ら課題に対する解決案を提案した。
- ・ **課題発見力**：課題を達成するために必要な新たな課題を考えた。
- ・ **傾聴力**：夢現の社員の話を聞きながら進めた。

株式会社夢現の皆様

受入とご指導・ご協力ありがとうございました。

インターンシップの役割

文部科学省では、「大学等におけるインターンシップの推進に係る専門人材の育成・配置について」でインターンシップに係る専門人材が果たす役割に、「**キャリア教育・専門教育に関する考え方**」や取組を踏まえて、学生の業種理解・仕事理解の促進」が挙げられている。

大学(専門)での学び~プログラミングの活用~

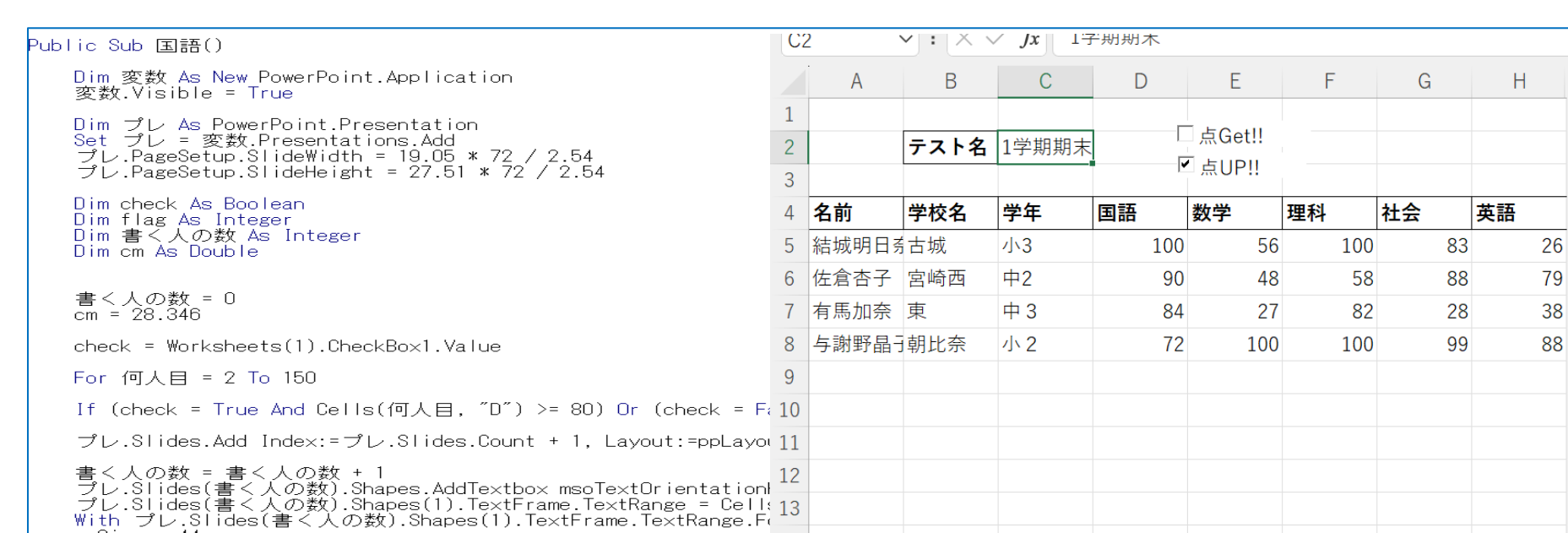


成績掲示は手作業

効率化

時間の確保

専門性を活かし、プログラミングによる成績掲示の製作時間の短縮を図った。



- ポイント
- ・ 誰でも扱えるものにする。
 - ・ 操作が複雑にならないようにする。
 - ・ エクセルで完結させる。



100枚当たり3時間が1時間に！
2時間の短縮

今後の課題

学生講師に目的(企業理念)を共感してもらうための研修内容等といった共有の仕方。

感想

自分たちの持っている知識や能力を活かすことが出来た。特に専門的な知識を社会に還元していく使命があると感じた。その一方で、様々な視点で物事を見るが出来ていないということに気付かされた。この活動を通して得られたものを今後につなげていきたい。